

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 6 年 8 月 2 日(2024.8.2)

【公開番号】特開 2024-45619(P2024-45619A)
【公開日】令和 6 年 4 月 2 日(2024.4.2)
【年通号数】公開公報(特許)2024-060
【出願番号】特願 2024-23074(P2024-23074)
【国際特許分類】
A 6 3 F 7/02(2006.01)
【F I】
A 6 3 F 7/02 3 1 2 Z

10

【手続補正書】
【提出日】令和 6 年 7 月 25 日(2024.7.25)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

20

遊技者に対し視認可能な態様で変位可能に構成される変位手段と、その変位手段を変位させる駆動力を発生させる駆動手段と、その駆動手段の駆動力を前記変位手段へ伝達する伝達手段とを備える遊技機であって、
前記伝達手段は、第 1 方向における寸法よりも前記第 1 方向と交差する第 2 方向における寸法の方が短くされ撓みやすさが方向で異なる形状から構成される部材を備え、前記部材は一の素材から構成され、
前記伝達手段は、前記変位手段が外力による所定方向への変位に伴い所定の基準位置を通過する前後で、前記変位手段から受ける力の方向と、前記第 2 方向とがなす角度が変化するよう構成され、
前記遊技機は、遊技球が入球可能な所定の入球手段を備える遊技盤を備え、
前記変位手段は、前記所定の入球手段への遊技球の所定の入球に対応する変位が可能に構成され、
前記伝達手段は、検出用の被検出部を有しないように構成され、
前記遊技機は、前記外力が生じている状態において、前記伝達手段に対して前記外力とは反対方向の荷重を伝達させる手段を備えることを特徴とする遊技機。

30

【手続補正 2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 0 2
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 0 2】

40

駆動力を変位手段に伝達する伝達手段を備える遊技機がある(特許文献 1)。

【手続補正 3】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0 0 0 3
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0 0 0 3】

50

【特許文献 1】特開 2 0 1 0 - 2 3 4 1 5 2 号公報

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

しかしながら、上述した従来の遊技機では、変位手段について改善の余地があるという問題点があった。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

本発明は、上記例示した問題点を解決するためになされたものであり、変位手段について改善することができる遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

この目的を達成するために請求項 1 記載の遊技機は、遊技者に対し視認可能な態様で変位可能に構成される変位手段と、その変位手段を変位させる駆動力を発生させる駆動手段と、その駆動手段の駆動力を前記変位手段へ伝達する伝達手段とを備える遊技機であって、前記伝達手段は、第 1 方向における寸法よりも前記第 1 方向と交差する第 2 方向における寸法の方が短くされ撓みやすさが方向で異なる形状から構成される部材を備え、前記部材は一の素材から構成され、前記伝達手段は、前記変位手段が外力による所定方向への変位に伴い所定の基準位置を通過する前後で、前記変位手段から受ける力の方向と、前記第 2 方向とがなす角度が変化するように構成され、前記遊技機は、遊技球が入球可能な所定の入球手段を備える遊技盤を備え、前記変位手段は、前記所定の入球手段への遊技球の所定の入球に対応する変位が可能に構成され、前記伝達手段は、検出用の被検出部を有しないように構成され、前記遊技機は、前記外力が生じている状態において、前記伝達手段に対して前記外力とは反対方向の荷重を伝達させる手段を備える。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 9】

請求項 1 記載の遊技機によれば、変位手段について改善することができる。

10

20

30

40

50